

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

加治先生【体育】 松永先生 【国語】 の授業研から

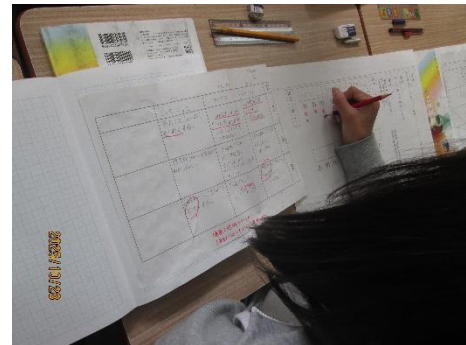
10月28日(火)、6年3組の松永先生が国語の学習において、3年2組の加治先生が初任者研修の体育の学習において授業研を行いました。

6年生の松永学級では、「物がまえ・身がまえ・心がまえ」の指導の継続がしっかりとなされています。「当たり前のことを当たり前のようにやれる」ことが最上級生に求められている姿であり、子ども達にもしっかりと意識づけされていました。グループ内での話し合い活動が主な学習の内容でしたが、どのグループにおいても目的を意識した話し合いがしっかりと行われていました。本時の学習の流れが子どもの思考にあったのはもちろんのこと、「事前に一人一人にしっかりと意見をもたせ、そこに教師による評価を加えることで自信を持たせておくこと」「グループ内で安心して話ができる温かな人間関係が構築されていること」の2点が大変有効でした。

3年生の加治学級では体育で「幅跳び」の学習が行われていました。「幅跳び」と言えば「運動場の砂場」をイメージするのですが、マットなどの器械運動の用具を活用し、「助走」「踏切」「着地」そして「記録の伸び」を意識できるよう、様々な場の設定がされていました。目標に向かって自分に合った方法で記録向上を目指す、すばらしい子ども達の姿を見ることができました。



物がまえ・身がまえ・心がまえの指導の継続



自信を持たせる教師の評価



グループ内での意見表明



共感的な理解を促す指導支援の継続



振り返りの場における自己認識



動きを高めるための場の設定



目標達成に向けた協力